

2022年9月  
日本小児科学会 国際渉外委員会  
委員長 諫山 哲哉  
調査担当 松井 彦郎

「小児一般診療における過剰検査・過剰診療に関する European Academy of Paediatrics との国際共同アンケート調査」協力依頼

日本小児科学会 国際渉外委員会ではグローバル化の進む現在、各国・各地域・世界の小児科関連の学会と連携を取りながら活動を行っております。

この度、当委員会が窓口となり日本小児科学会と European Academy of Paediatrics (EAP) が合同で、「小児一般診療における過剰検査・過剰診療に関する EAP との国際共同アンケート調査」を企画し、実施する運びとなりました。是非ご協力賜りますようお願いいたします。

今回ご回答いただいたデータは、EAP サーバー内で厳重に保管し、集計・解析した後、国際渉外委員会報告として日本小児科学会雑誌上での公表や論文投稿を予定しております。

#### 調査研究の名称

「小児一般診療における過剰検査・過剰診療に関する European Academy of Paediatrics との国際共同アンケート調査」

#### 【調査の目的】

本調査の目的は、小児一般診療の検査・診療の現状について、小児科医に無記名でアンケート調査し、過剰な検査・診療の実態と国際間の差を明らかにすることです。

#### 【対象者】

日本小児科学会会員、日本小児科学会分科会・地方会に所属する小児科医、EAP に所属しているヨーロッパ各国の小児科医

#### 【調査の方法】

調査は EAP で作成した日英表記の Web アンケート調査(10分程度)です。調査内容は以下の通りです。

下記を例にした小児一般診療における19項目の質問について、5段階評価(全く行われていない～非常によく行われている)の選択式で回答いただきます。

(質問例)

- 「6歳以上の小児の急性中耳炎に対するルーティンの治療としての抗菌薬の投与は、どの程度行わ

れていますか？」

- 「乳児の気管支炎に対するルーティンの治療としてのステロイドや気管支拡張薬の投与は、どの程度行われていますか？」

また、それぞれの質問において、回答者が過剰検査・治療の重要度について、5段階で回答をお願いします。

#### 【アンケートの回収】

アンケートは以下の URL にアクセス、または QR コードを読み込みご回答くださいますようお願い申し上げます。2022 年 11 月 30 日までにご回答いただけますと幸甚に存じます。

回答はすべて選択式です。

URL: <https://eaprasnet.org/choosingwisely/jps/>

QR コード:



#### 【プライバシーの保護】

アンケートは匿名で回答していただき、回収後は EAP 事務局で集計・解析されます。調査結果は統計的な処理をして公表されるため、ご回答いただいた方個人の情報が公開されることは一切ありません。

#### 【調査へのご協力について】

調査へのご協力は任意であり、ご協力いただけても不利益となることは一切ありません。

#### 【調査への同意と同意の撤回について】

本研究は Web 回答による調査ですので、本書面をお読みいただき、アンケートの回答を以て本調査の主旨に同意していただいたとみなします。同意の撤回に関しては、本調査は無記名の Web 調査であることから、回答後に同意の撤回に基づくデータの削除はできません。

#### 【お問い合わせ先】

公益社団法人 日本小児科学会

国際渉外委員会担当

TEL: 03-3818-0091      FAX: 03-3816-6036

Email: [jps-international@jpeds.or.jp](mailto:jps-international@jpeds.or.jp)